

二番茶総評

令和6年6月30日

本年の県内産の二番茶は、昨年より5日遅く6月初めより生産が開始され6月10日には各産地が出揃いました。梅雨入り（6月21日）が平年より遅く、前半は降雨による硬葉化がなく芽伸びが緩やかなことから反収は膨らみませんでした。後半も芽伸びは緩やかで、一番茶の摘採が遅れ多収となった茶園や一番茶後の整枝作業等の管理が遅れた茶園では、芽伸びが緩慢で反収は膨らみませんでした。一番茶で二番茶の価格まで多く生産され二番茶の需要が減少したことから買手の要望に沿った受注生産が行なわれ、リーフ・ドリンク原料ともに品質重視の生産が行なわれたことから減収となりました。

取引状況は、一番茶の下物が多く生産され二番茶の枠で仕入れをしたため二番茶の仕入れ予定数量を絞る買手があり、当初は様子見や選択買いの傾向となりました。反収が増えず生産量が昨年より少ない見通しとなると数量を確保する動きが見られ、リーフ使用は下げ幅が小さくなりドリンク原料も数量を確保する動きから横這いで推移するなど堅調な取引となりました。平均単価は、堅調な取引にもかかわらず一番茶の価格安の影響を受けて昨年より5%ほど安くなりました。緩慢な芽伸びや品質重視の生産、一番茶の価格安により二番茶を生産しない工場があったことから生産量が少なくなり、弊社の取扱数量は昨年より30%程少なくなりました。